

英語科教育法 教本シリーズ 1

英語科教育法

初心者のための教本

中学校編

高橋 準一

青山ライフ出版



はじめに

この教本は、初めて教壇に立つ人にとって、大切な助けとなると願ってやまない。

おさえるべき基本のポイントを示している。以下に示すものは、それぞれを1回ずつや、回数ずつ選択してやるのではなく、それぞれを継続して取り組むことで効果があると考え。特に、中学1年生の最初の段階は、書くこと、読むこと、に重点を置き、授業を仕組むことで、その後の英語学習への不快感を少なくすると思われる。新しく教壇に立つ皆さんが、不安を少なくして、生徒に向かえるよう、準備は万全に、取り組んでほしい。

高橋 準一

英語科教育法❖目次

はじめに	3
項目 1 <アルファベットの音読み練習>	6
項目 2 <単語（文字）と音のつながり>	7
項目 3 <新出単語の音読>	8
項目 4 <単語の書き練習>	9
項目 5 <本文の音読>	10
項目 6 <単語・基本文テスト>	11
項目 7 <基本文の定着>	12
項目 8 <本文の内容確認>	13
項目 9 <定期テスト前の学習>	14
項目 10 <評価>	15
項目 11 <ピクチャーカード>	16
項目 12 <低位の生徒の多いクラス>	18
項目 13 <挙手発言>	20

項目14 <板書>	21
項目15 <ノート>	22
項目16 <ワークの選定>	23
項目17 <学力をつける>	24
項目18 <OUTPUT>	25
項目19 <初発指導>	26
項目20 <話すスピード>	27
項目21 <クラスルームイングリッシュ>	28
項目22 <プリント学習>	29
項目23 <授業の流れ>	30
項目24 <生徒指導と授業>	31
項目25 <研修と指導力の向上>	32

項目1 ❖

<アルファベットの音読み練習>

アルファベットをA, B, Cと読むのは、小学校段階で学習していると思われる。生活上も、小さいころから興味のある子は知っている。A, B, Cが読めたとしても、英文や英単語は読めない。それではA, B, Cの発音がなぜ必要なのかとってしまうぐらいであるが、それよりも、音読み（おとよみ）を繰り返し練習することである。フォニックスの本を見れば必ずついている音読みである。Aはア、Bはブツ、Cはクツ、・・・と読むのである。これを音楽に合わせて最低5回は授業の始めにやりたいものである。手にアルファベットのカードを持って、1枚1枚出しながら、発音させ、定着を図る。指導者も一緒にリズムに乗りながらやることで生徒は、リズムで体にしみこんで覚えていくであろう。

Q: アルファベットすべてを音読みしなさい。